



TITLE:

表紙・投稿規定・プレプリント・  
掲示板・編集後記・目次・裏表紙  
ほか

AUTHOR(S):

CITATION:

表紙・投稿規定・プレプリント・掲示板・編集後記・目次・裏表紙ほか. 物性研究 1969, 12(5): 354-363

ISSUE DATE:

1969-08-20

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/87176>

RIGHT:

昭和42年11月14日 第四種郵便物認可  
昭和44年8月20日発行（毎月1回20日発行）  
物 性 研 究 第12巻 第5号

vol. 12 no. 5

# 物性研究

1969 | 8



1. 本誌は、物性物理の研究を共同で促進するため、研究者がその研究意見を自由に発表し討論しあい、また、研究に関連した情報を速やかに交換しあうことを目的として、毎月1回編集・刊行されます。掲載内容は、研究論文、研究会・国際会議などの報告、講義ノート、研究に関連した諸問題についての意見、情報などです。
2. 本誌に掲載される論文については、原則として審査は行ないません。但し、編集者が本誌に掲載することを著しく不適当と認めたものについては、改訂を求め、または掲載を拒絶することがあります。
3. 本誌の掲載論文を他の学術雑誌に引用するときは、著者の承諾を得た上で **private communication** 扱いにして下さい。

### 投稿規定

1. 雑誌のページ数を節約するため原稿は極力簡潔にお書き下さい。
2. 原稿は400字詰原稿用紙を使用して下さい。
3. 数式、記号の書き方は **Progress**、**Journal** の投稿規定に準じ、ミスプリントが生じないように適当な処置をとって下さい。  
上ツキ、下ツキは特に紛わしいもののみを指定して下さい。  
英字の大、花文字、ギリシャの指定を忘れないように、**o** と **a** と **0** (ゼロ)、**u** と **n** と **rr**、**c** と **e**、**l** (エル) と **1** (イチ)、**x** と **×** (カケル)、**u** と **v** 等が一番間違いやすい。
4. 数式は3行にわたって大きく書いて下さい。
5. 1行以内におさまらない可能性のある長い数式等は必ず改行の際の切れ目を赤で指定して下さい。
6. 図の縮尺、拡大は致しません。一頁以内に入らない図は原則として著者に返送し、書き改めていただきます。
7. 投稿後の原稿の訂正はできるだけさけるようにして下さい。
8. 別刷が入用な場合は、投稿の際に所要部数を10部単位で申込んで下さい。別紙代は下記方式により、**現金で納入**していただきます。

(郵券による受付はいたしません。)

**p** : 物研出来上り頁数

**x** : 別刷所要部数

**a** : 別刷一頁の代金 1円

**b** : 製本代(別刷一部につき) 10円

別刷代 = (**a p** + **b**)**x** + 送料

別刷代金は別刷を受取ってから、1ヶ月以内に納めて下さい。

それより遅れた場合には遅滞追徴金を請求されることがあります  
すから、御注意下さい。

9. 原稿締切日は毎月20日で原則として次月発行誌に掲載されます。

1. 本誌は、物性物理の研究を共同で促進するため、研究者がその研究意見を自由に発表し討論しあい、また、研究に関連した情報を速やかに交換しあうことを目的として、毎月1回編集・刊行されます。掲載内容は、研究論文、研究会・国際会議などの報告、講義ノート、研究に関連した諸問題についての意見、情報などです。
2. 本誌に掲載される論文については、原則として審査は行いません。但し、編集者が本誌に掲載することを著しく不適当と認めたものについては、改訂を求め、または掲載を拒絶することがあります。
3. 本誌の掲載論文を他の学術雑誌に引用するときは、著者の承諾を得た上で **private communication** 扱いにして下さい。

### 投稿規定

1. 雑誌のページ数を節約するため原稿は極力簡潔にお書き下さい。
2. 原稿は400字詰原稿用紙を使用して下さい。
3. 数式、記号の書き方は **Progress**、**Journal** の投稿規定に準じ、ミスプリントが生じないように適当な処置をとって下さい。  
上ツキ、下ツキは特に紛わしいもののみを指定して下さい。  
英字の大、花文字、ギリシャの指定を忘れないように、**o** と **a** と **0** (ゼロ)、**u** と **n** と **rr**、**c** と **e**、**l** (エル) と **1** (イチ)、**x** と **×** (カケル)、**u** と **v** 等が一番間違いやすい。
4. 数式は3行にわたって大きく書いて下さい。
5. 1行以内におさまらない可能性のある長い数式等は必ず改行の際の切れ目を赤で指定して下さい。
6. 図の縮尺、拡大は致しません。一頁以内に入らない図は原則として著者に返送し、書き改めていただきます。
7. 投稿後の原稿の訂正はできるだけさけるようにして下さい。
8. 別刷が入用な場合は、投稿の際に所要部数を10部単位で申込んで下さい。別紙代は下記方式により、**現金で納入**していただきます。

(郵券による受付はいたしません。)

**p** : 物研出来上り頁数

**x** : 別刷所要部数

**a** : 別刷一頁の代金 1円

**b** : 製本代(別刷一部につき) 10円

別刷代 = (**a p** + **b**)**x** + 送料

別刷代金は別刷を受取ってから、1ヶ月以内に納めて下さい。

それより遅れた場合には遅滞追徴金を請求されることがあります  
すから、御注意下さい。

9. 原稿締切日は毎月20日で原則として次月発行誌に掲載されます。

## 掲 示 板

### 物 性 百 人 委 員 改 選 開 票 結 果 報 告

物小委幹事      豊 沢      豊

今般、物性グループ事務局により作成された新「物性グループ名簿」を選挙人名簿として、物性百人委の改選を行ないました。以下開票経過及び結果を報告致します。

開票日時      1969年7月4日    13時30分～20時

開票場所      物性研第二会議室

開票立会人    石井広湖，大川篤子，恩田美智絵，桜井明夫，張紀久夫，  
豊沢 豊，豊富誠之，森垣和夫，諸岡とし子，山田耕作

有権者数      2120名

投票者数      953名

総投票数      7624票（＝953×8票）

有効票      6900票

内 無効票      2票

白 票      722票（内192票は全面白票24枚に由る）

委員定員      144名

当 選 者      157名

投票規定6の3)「各地区少くも4名」の条件をみたしているので、  
地方調整の必要はありません。

当選者及び次点者を別表に示します。

掲 示 板

票数	氏 名	所 属	票数	氏 名	所 属
83	豊 沢 豊	(物 物 研)	33	小 村 幸 友	(広 大 理)
73	宮 原 将 平	(北 大 理)	33	辰 本 英 二	(広 大 理)
66	金 森 順次郎	(阪 大 理)	33	徳 永 正 晴	(北大応電研)
65	中 山 正 敏	(九大教養)	33	日 片 守	(京 大 理)
62	森 肇	(九 大 理)	33	横 田 伊佐秋	(新潟大理)
60	勝 木 渥	(信州大理)	32	都 築 俊 夫	(九 大 理)
60	白 鳥 紀 一	(阪 大 理)	32	堀 淳 一	(北 大 理)
59	米 沢 富美子	(基 研)	31	戸 田 盛 和	(東教大理)
54	伊 達 宗 行	(阪 大 理)	29	蔵 本 由 紀	(九 大 理)
51	芳 田 奎	(物 性 研)	29	斎 藤 信 彦	(早大理工)
50	三 輪 浩	(阪 大 理)	29	持 田 潔	(北 大 理)
49	相 沢 洋 二	(早大理工)	28	伊 藤 太 郎	(北 大 理)
48	岡 本 浩 一	(早大理工)	28	大 塚 泰一郎	(東北大理)
47	入 江 捷 広	(早大理工)	28	間 瀬 正 一	(九 大 理)
47	松 原 武 生	(京 大 理)	27	石 井 力	(東 大 理)
47	渡 部 三 雄	(東北大理)	27	江 尻 有 郷	(東大教養)
46	久 保 亮 五	(東 大 理)	27	逢 坂 豪	(名 大 工)
44	平 川 金四郎	(九 大 工)	27	紀 隆 雄	(広 大 理)
42	長 岡 洋 介	(名 大 理)	27	桐 谷 道 雄	(広 大 理)
41	辻 村 瑛	(信 大 理)	27	斯 波 弘 行	(阪 大 理)
38	森 垣 和 夫	(物 性 研)	27	中 嶋 貞 雄	(物 性 研)
37	川 村 清	(東 大 理)	27	長 坂 慎一郎	(東北大理)
37	永 宮 健 夫	(阪大基工)	27	長谷川 正 之	(東北大理)
36	国 富 信 彦	(阪 大 理)	26	飯 田 修 一	(東 大 理)
36	近 桂一郎	(早大理工)	26	市 川 瑞 彦	(北 大 理)
35	小 川 泰	(京 大 理)	26	林 英 輔	(名 大 工)
35	森 田 章	(東北大理)	26	平 井 正 光	(東北大理)
34	近 藤 淳	(電試田無)	26	藤 原 浩	(広 大 理)

掲 示 板

票数	氏 名	所 属	票数	氏 名	所 属
25	井 上 政 義	(鹿児島大理)	21	鈴 木 秀 次	(東 大 理)
25	大 成 逸 夫	(東大教養)	21	竹 田 恒 治	(東北大理)
25	没 谷 元 一	(静 大 理)	21	近 角 聰 信	(物 性 研)
25	山 田 慶 治	(名 大 工)	21	槌 田 勳	(京 大 工)
25	渡 辺 誠	(京 大 理)	21	松 田 博 嗣	(基 研)
24	糟 谷 忠 雄	(東 理)	21	山 田 修 義	(東 大 理)
24	立 木 昌	(東北大金研)	21	永 原 茂	(富 山 大)
24	長 沢 信 方	(東北大理)	20	碓 井 恒 丸	(名 大 理)
24	守 谷 亨	(物 性 研)	20	加 藤 友 彦	(名 大 工)
24	吉 田 健	(九 大 理)	20	木 村 宏	(東北大金研)
23	植 村 泰 忠	(東 大 理)	20	小 島 英 夫	(静 大 理)
23	久 保 武 治	(京 大 理)	20	長谷川 彰	(東北大理)
23	好 村 滋 洋	(広 養)	20	山 田 知 司	(九 大 工)
23	桜 井 明 夫	(物 性 研)	20	山 内 淳	(名 大 理)
23	辻 幹 男	(九 大 工)	19	桑 原 改 造	(広 大 工)
23	益 田 義 賀	(名 大 理)	19	角 野 浩 二	(東北大金研)
23	吉 田 滋	(東北大養)	18	市 川 竹 男	(早大理工)
23	渡 辺 浩	(東北大金研)	18	岡 崎 篤	(九 大 理)
22	石 川 義 和	(物 性 研)	18	上 村 洸	(東 大 理)
22	佐々木 亘	(東 大 理)	18	寺 尾 冽	(信 大 理)
22	菅 野 暁	(物 性 研)	18	長谷川 洋	(京 大 理)
22	広 瀬 敏 和	(鹿児島大教養)	18	花 村 栄 一	(物 性 研)
22	本 田 勝 也	(名 大 工)	17	石 川 幸 志	(名 大 理)
22	前 田 甫	(東芝中研)	17	伊 藤 敏 雄	(東大教養)
22	松 村 温	(九 大 理)	17	井 上 則 好	(広大教養)
22	御子柴 宣 夫	(電試田無)	17	大 成 誠之助	(東大教養)
22	山 下 次 郎	(物 性 研)	17	木 村 初 男	(名 大 工)
21	川 村 肇	(阪 大 理)	17	田 中 正 子	(東北大理)

掲 示 板

票数	氏 名	所 属	票数	氏 名	所 属
17	伴 野 雄 三	(物性研)	14	石 川 正 勝	(名大理)
17	波田野 彰	(東大教養)	14	井 戸 忠	(名大工)
17	藤 井 保 彦	(阪大理)	14	井 上 主 税	(広大理)
17	真 木 和 美	(東北大理)	14	小 幡 行 雄	(原 研)
16	石 田 興太郎	(東大教養)	14	柏 村 昌 平	(名大教養)
16	小 野 周	(東大教養)	14	木名瀬 亘	(早大理工)
16	作 道 恒太郎	(電 試)	14	佐 藤 洋 一	( )
16	沢 田 康 次	(阪大理)	14	渋谷 喜 夫	(九大理)
16	鈴 木 平	(物性研)	14	対 馬 立 郎	(電 試)
16	高 野 文 彦	(東教大理)	14	端 恒 夫	(京大理)
16	富 田 和 久	(京大理)	14	長谷田 泰一郎	(京大理)
16	中 道 琢 郎	(東北大金研)	14	藤 原 邦 男	(東大教養)
15	阿 部 竜 蔵	(東大教養)	14	星 埜 禎 男	(物性研)
15	伊 藤 順 吉	(阪大基工)	14	前 田 鐘 三	(名大工)
15	小 川 信 二	(電試田無)	14	山 田 安 定	(阪大理)
15	桂 重 俊	(東北大工)	14	渡 辺 昂	(北大理)
15	北 野 保 行	(広大理)	14	渡 辺 伝次郎	(東北大理)
15	黒 石 哲 生	(名大理)	以上 157名当選		
15	坂 本 信 彦	(電 試)	次 点		
15	菅 原 忠	(物性研)	13	上 田 正 康	(東北大理)
15	田 沼 静 一	(物性研)	13	大 野 公 男	(北大理)
15	寺 本 清	(大府大教養)	13	小 川 四 郎	(東北大金研)
15	中 野 藤 生	(名大工)	13	久 米 潔	(都立大理)
15	能 勢 宏	(金属材料 技術研)	13	佐々木 泰 之	(東大教養)
15	福 井 稔	(名大理)	13	高 村 仁 一	(京大工)
15	宮 城 宏	(阪大基礎工)	13	張 紀久夫	(物性研)
15	山 口 佐	(鳥取大教養)	13	寺 崎 浩	(東北大理)
15	渡 辺 宏	(阪市大理)	13	戸 村 正 夫	(阪市大工)



A symposium on "Statistical Mechanics at the Turn of the Decade" will be held here in honor of Professor George E. Uhlenbeck on October 30-31, 1969. Eight invited speakers will summarize in 50-minute lectures the status of our understanding of a number of selected fundamental problems in statistical mechanics, with special emphasis on advances during the last decade. In order that there be ample time for discussion, we are not planning on contributed papers. Our list of speakers and topics as of now includes:

E. D. G. Cohen, The Rockefeller University

"The Generalization of the Boltzmann Equation to Higher Densities"

C. Domb, King's College, London University

"The Curie Point"

F. Dyson, Institute for Advanced Study

"The Existence of Phase Transitions in One-Dimensional Ferromagnets with Long-Range Interactions"

Pierre C. Hohenberg, Bell Telephone Laboratories, Murray Hill, N. J.

"Dynamics near Phase Transitions"

Paul Martin, Harvard University

"Superfluids and Superconductors"

David Ruelle, Institute des Hautes Etudes Scientifiques, Bures-Sur-Yvette, France

"The  $C^*$ -Algebra Approach to Statistical Mechanics"

A. J. F. Siegert, Northwestern University

"From the Mean Field Approximation to the Method of Random Fields"

揭 示 板

The lectures will be scheduled as follows:

	Thursday	Friday
9:30A.M.	Welcome and Announcements	
9:45	Martin	9:45A.M. Dyscn
11:00	Ruelle	11:00 Domb
2:15P.M.	Cohen	2:15P.M. Siegert
3:30	(Metric Transitivity)	3:30 Hohenberg

We would appreciate it very much if you would return the enclosed postcard and indicate whether you are likely to attend, so we can block the right number of hotel rooms and reserve a lecture room of appropriate capacity.

We would appreciate it if you would call this also to the attention of others who may be interested.

Sincerely yours,

Arnold J. F. Siegert  
for the Organizing Committee

## プレプリント案内

[東大・久保研]

- Computer Studies on the Approach to Thermal Equilibrium in Anharmonic Coupled Oscillators  
(N. Ooyama, H. Hirooka and N. Saito)
- Local Electron Distribution in the Singlet Ground State Due to the s-d Exchange Interaction  
(K. Yosida and A. Yoshimori)
- Long-Range Order in Ideal Ferromagnets  
(M. Suzuki)
- Electron Spin Resonance and Nuclear Anisotropy  
(K. Okuda and M. Date)
- Production et Observation d'un Etat Antiferromagnetique Nucleaire  
(M. Chapellier, M. Goldman, Vu H. Chau, A. Abragam)
- Investigation of the Magnetoacoustic Attenuation  
(Yasunobu Fujimori)
- Zero Sound Oscillation in the Magnon Assembly  
(T. Izuyama and M. Saitoh)
- The Scaling Form of the Spin-Spin Correlation Function of the Three-Dimensional Ising Ferromagnet above the Curie Temperature  
(M. Ferer, M. A. Moore, and M. Wortis)
- Statistical Theory of the Decay of Metastable States  
(J. S. Langer)
- Theory of Itinerant Ferromagnets Exhibiting Localized Moment Behavior above the Curie Point  
(S. W. Wang, W. E. Evenson, and J. R. Schrieffer)

プレプリント案内

- Nonlinear Response above the Superconducting Transition Point I.

(T. Tsuzuki)

— Static Field —

- Nonlinear Response above the Superconducting Transition Point II.

(T. Tsuzuki)

— Alternating Field —

- Contributions from the Research Group on Atoms and Molecules, No.5

(Research Group on Atoms and Molecules, Ochanomizu University)

- The Superconducting Phase Transition: Fluctuations and Paraconductivity

(R. A. Ferrell)

- Dynamical Properties of the XY Model

(S. Katsura, T. Horiguchi and M. Suzuki)

- On the Ising Model with Long Range Interaction II

(C. J. Thompson, A. J. F. Siegert, D. J. Vezzetti)

- Light Scattering and Pseudo-Spinodal Curves: The Isobutyric Acid-Water System in the Critical Region

(B. Chu, F. J. Schoenes, and M. E. Fisher)

- Superlattice and Negative Conductivity in Semiconductors

(L. Esaki and R. Tsu)

- Charge and Spin Susceptibility of a Ferromagnetic Electron Gas

(D. J. Kim, H. C. Pradhaude and B. B. Schwartz)

- Two-Dimensional Antiferromagnetism in  $\text{Mn}(\text{HCOO})_2 \cdot 2\text{H}_2\text{O}$

(J. Skalyo, Tr., and G. Shirane)



- Inelastic Neutron Scattering Investigation of Spin Waves and Magnetic Interactions in  $\text{Cr}_2\text{O}_3$   
(E. J. Samuelsen, M. T. Hutchings, and G. Shirane)
- Tunneling Measurement of Electron-Plasmon Interaction in Degenerate Semiconductors  
(C. B. Duke, M. J. Rice, and F. Steinrisser)
- Tunneling into and Through Evaporated Semiconducting Films  
(I. Giaever and H. R. Zeller)
- Electrical Resistivity, Acoustic Attenuation, and the Impurity Scattering Potential of Nearly Free Electron Metals  
(M. J. Rice and L. J. Sham)
- Electron Correlation in Narrow Energy Bands  
I. The Two-Pole Approximation in a Narrow S-Band  
(L. M. Roth)

[名 大]

- PHENOMENOLOGICAL THEORY OF SUPERREFLUIDITY NEAR  $T_\lambda$   
by Tunemaru USUI and Jun YAMAUCHI

[北 大]

- Localization of Electronic States in One-Dimensional Disordered Systems  
(B. Y. Tong)
- Electrical Resistance of Disordered One-Dimensional Lattices  
(R. Landauer)

## 編集後記

窓外の蟬しぐれも漸く繁く，夏も本格的となり緑陰に書を読む候となつて来ました。夏休みには普段余り読まない本や論文などを読んで，視野を広めたり，別の観点からものをみる力を養うのも夏の一つの過し方であろうかと思います（今年の夏は大学問題等で夏休みも事実上ない人々も多く居られると思います）。

さて京都編集員一同は「物性研究」がより面白い雑誌になるよう色々企画を出していますが，残念ながら読者からの反応が少ないのは否定出来ないようです。最近「物性研究」に投稿される論文の内容は殆どすべて学会に於ける所謂「物性基礎論」の分科で発表されるものと同一性質のものです。オーソドックスな物性理論のみでなく，境界領域に関連した内容の論文の投稿もあつてよいと思います。基礎物理とは何かと云うことは一つの問題ですが，物性論に関連した基礎物理的論文の投稿を歓迎致します。とも角自然科学の研究内容の規模の増大と細分化が急速に進んでいる現状に於て，「物性研究」がその自在意義が十分にある雑誌であることを希望しています。

( S . T . )

物 性 研 究  
第 12 卷第 5 号  
1969 年 8 月 20 日 発行

発行人	松 田 博 嗣 京 都 市 左 京 区 北 白 川 京 都 大 学 基 礎 物 理 学 研 究 所
印刷所	昭 和 堂 印 刷 所 京 都 市 上 京 区 上 長 者 町 通 室 町 西 入 T E L ( 京 都 )    4 4 1 - 1 6 5 9
発行所	物 性 研 究 刊 行 会 京 都 市 左 京 区 岡 崎 徳 成 町 1 1 有 限 会 社    双 美 社 内

## 編集後記

窓外の蟬しぐれも漸く繁く，夏も本格的となり緑陰に書を読む候となつて来ました。夏休みには普段余り読まない本や論文などを読んで，視野を広めたり，別の観点からものをみる力を養うのも夏の一つの過し方であろうかと思ひます（今年の夏は大学問題等で夏休みも事実上ない人々も多く居られると思ひます）。

さて京都編集員一同は「物性研究」がより面白い雑誌になるよう色々企画を出していますが，残念ながら読者からの反応が少ないのは否定出来ないようです。最近「物性研究」に投稿される論文の内容は殆どすべて学会に於ける所謂「物性基礎論」の分科で発表されるものと同一性質のものです，オーソドックスな物性理論のみでなく，境界領域に関連した内容の論文の投稿もあつてよいと思ひます。基礎物理とは何かと云うことは一つの問題ですが，物性論に関連した基礎物理的論文の投稿を歓迎致します。とも角自然科学の研究内容の規模の増大と細分化が急速に進んでいる現状に於て，「物性研究」がその自在意義が十分にある雑誌であることを希望しています。

( S . T . )

物 性 研 究  
第 12 卷第 5 号  
1969 年 8 月 20 日 発行

発行人	松 田 博 嗣 京 都 市 左 京 区 北 白 川 京 都 大 学 基 礎 物 理 学 研 究 所
印刷所	昭 和 堂 印 刷 所 京 都 市 上 京 区 上 長 者 町 通 室 町 西 入 T E L ( 京 都 ) 4 4 1 - 1 6 5 9
発行所	物 性 研 究 刊 行 会 京 都 市 左 京 区 岡 崎 徳 成 町 1 1 有 限 会 社 双 美 社 内

Supplement of the Progress of Theoretical Physics

No.43 「Bethe-Salpeter 方程式の概論」特集号案内

A General Survey of the Theory  
of the Bethe-Salpeter Equation..... Noboru Nakanishi

いわゆる素粒子が、何等かの意味で複合的な性格をもっていることは、今日では広く一般的に認められている事実である。ところが特殊相対論の要求をみたすように複合粒子の理論を構成することは、それ程容易なことではなく、正統的な場の理論の枠内でも今日迄に知られている殆ど唯一の例は、Bethe-Salpeter 方程式があるのみである。この方程式については発見されてから約20年、我国でも活発に研究されてきたが、世界的にみてもいまだ適当な総合報告が出版されていない。特に最近数年は長足の発展をとげたS-行列理論の観点からこの方程式が見直され、種々の興味ある結果がえられている。またこの方程式の理論的側面として、正統的な場の理論の枠外にでるような問題——不定計量、多重極の存在等——が発見されたことも興味のあることである。このたび発見者である中西襄氏により、系統的な総合報告が出版されたことは、単にこの方面の研究者のみならず、広く素粒子論の研究者にとつても、将来への発展の手掛りを示唆する意味で、重要であると思われる。

販売 公費払 ￥900. (私費払の方は料金を添えてご注文ください。送金は振替又)  
私費払 ￥600. (は現金書留で願います。)

8月25日発行

606 京都市左京区北白川追分町  
京都大学 湯川記念館内

理論物理学刊行会

電話 (075) 771-8111 (内線 5171)  
振替貯金口座 京都 3 9 7 7 番  
取引銀行 第一銀行百万遍支店 当座預金

切 取 線

注 文 書

年 月 日

Supplement No.

部

氏 名

所 属 機 関 名

送 本 先

送 金 額 金 円



## 購読規定

### 個人購読

1. 会費 当会の会費は前納制をとっています。したがって  
3月末までになるだけ(1年間分会費を御支払い下さい。  
なお新規購読の場合は下記の会費以外に入会金として、  
100円お支払い下さい。

#### ※ 1年間の会費

1st volume 960円

2nd volume 960円

計 1,920円

(1年分まとめてお支払いが困難の向きは1 volume 分ずつでも結構です。)

2. 支払いの際の注意：なるべく振替用紙を御利用の上御納入下さい。  
なお通信欄に送金内容を必ず明記して下さい。
3. 雑誌購読者以外の代理人が購読料を送金される場合、必ず購読者本人の名前を明記して下さい。
4. 誌代の支払遅滞の場合：当会の原則としては、正当な理由なく2 Vol. 以上の誌代を滞納された場合には、送本を停止することになっていきますので御留意下さい。
5. 一括送本を受ける場合：個人購読中に大学等で一括配布を受ける様になった場合は、必ず「個人購読中止、一括配布希望」の通知をして下さい。逆の場合も同様です。
6. 送本先変更の場合：住所、勤務先の変更等送本先が変わった場合は、必ず送本先変更届を提出して下さい。

### 学校、研究所等機関購読

1. 会費：学校・研究所等での購読及び個人であっても公費払いのときは機関会員とみなし、代金は、1 Vol. 1,800円です。この場合、入会金は不要です。学校、研究所の会費の支払いは後払いでも結構です。しかし購読申込みをされる時に支払いに必要な請求見積、納品書各何通必要なのかをお知らせ下さい。なお、当会の請求書類では支払いができない様でしたら、貴校貴研究機関の請求書類を送付して下さい。
2. 送本中止の場合の連絡：発行途上にある volume の購読途中中止は認められません。購読中止される場合には、1ヶ月前ぐらいいに中止時期を明記して「購読中止届」を送付して下さい。



物 性 研 究 12—5 (8月号) 目 次

◎ 1次元 Random 格子内に入射した平面波の減衰	広田 徹	287
◎ レオロジーの幾何学的研究—IV—	池田 恵	305
◎ 渦糸に Trap された陰イオンの Mobility	大貝哲臣・碓井恒丸	318
◎ 第2近接力と一次元格子の振動	小暮陽三	327
◎ 資 料		
「基研昭和44年度後期研究計画応募一覧」		337
◎ 掲 示 板		
(1) 物性百人委員改選開票結果報告		354
(2) Symposium の案内		358
◎ プレプリント案内		360
◎ 編 集 後 記		363



物 性 研 究 12—5 (8月号) 目 次

◎ 1次元 Random 格子内に入射した平面波の減衰	広田 徹	287
◎ レオロジーの幾何学的研究—IV—	池田 恵	305
◎ 渦糸に Trap された陰イオンの Mobility	大貝哲臣・碓井恒丸	318
◎ 第2近接力と一次元格子の振動	小暮陽三	327
◎ 資 料		
「基研昭和44年度後期研究計画応募一覧」		337
◎ 掲 示 板		
(1) 物性百人委員改選開票結果報告		354
(2) Symposium の案内		358
◎ プレプリント案内		360
◎ 編 集 後 記		363